銀河戦国群雄伝ライ 異聞

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

DC EX

銀河戦国群雄伝ライ 異聞

真鍋譲治

DE-5-29

発行
メディアワークス

9784840225625

ISBN4-8402-2562-1

C0979 ¥930E

1920979009301

発行●メディアワークス

定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

DENGEKI COMICS EX

銀河戦国群雄伝ライ①～㉗、異聞
真鍋譲治

くろぼね①
真鍋譲治

魔狼王烈風伝 全10巻
沢田 翔

Nocturne～夜想曲～ 全3巻
栗橋伸祐

ガンドライバー 全8巻
ビトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①～②
うたたねひろゆき

電撃ガオガイガー
竹田裕一郎、大森 葵ほか

仙木の果実
八房龍之助

宵闇眩燈草紙①～④
八房龍之助

勇者王ガオガイガーFINAL the COMIC
矢立 肇原作
北嶋博明／竹田裕一郎構成
大森 葵作画

悠久黙示録エイドロンシャドー①～②
うるし原智志作画
よしもときんじ原案

あずまんが大王 全4巻
あずまきよひこ

あずまんがリサイクル
あずまきよひこ

平成イリュージョン 仮想年代記
小だまたけし

ダークウィスパー①～③
山下いくと

イグナクロス零号駅①
CHOCO

マラヤ 全4巻
安彦良和

ANGEL FOYSON①～③
澁澤工房

SISTER RED 全2巻
林家志弦

電撃ガンパレード・マーチ THE COMIC
うたたねひろゆき、中村博文、
つちやきょうこ ほか

ココロ図書館 全3巻
高木信孝

PUREまりおねーしょん①
高木信孝

レディ・ファウスト 全2巻
かのえゆうし

Natural―F&Cリミックス ファンブック～Canvas―
F&C原作
内藤泰弘／江森美沙樹(F&C・FC01)作画

Prism Palette
PEACH-PIT

クロノスヘイズ①～②
高野真之

真・快傑蒸気探偵団①～⑬
麻宮騎亜

神無［カンナ］①～③
桐嶋たける

ニニンがシノブ伝①～②
古賀亮一

TOYBOYバグジ 全2巻
こやま基夫

隻眼獣ミツヨシ①
上山徹郎

塊根の花
八房龍之助

ラグナロクオンライン コミックアンソロジー
みづきたけひと、KIMち～ ほか

TICKTACK GANGAN
秋月亮

ころころころもちゃん
むっく

電撃ガンパレード・マーチ ～新たなる行軍歌～ THE COMIC THE LAST DANCE GUNPARADE

PC EX

銀河戦国群雄伝ライ 異聞

真鍋譲治

DE-5-29

発行
メディアワークス

Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics
Dengeki Comics

DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics
DengekiComics

銀河の覇権を賭けて戦った英傑たちを
描いた大長編戦国絵巻！

銀河戦国群雄伝

ライ

全27巻絶賛発売中!!

銀河に新たな英傑・ジャムカ現れる!!

狙うは皇帝の命!!

竜我雷

Dengeki Comics EX

真鍋譲治

真鍋譲治

DE-5-29

発行
メディアワークス

母の仇、竜我雷を討つ!!

銀河が竜我雷により統一されてから十数年。世は完全な平和とは言えず、海賊が大五丈帝国の国境周辺を騒がしていた。その海賊を率いているのはジャムカという男で、独眼竜正宗の子供だと名乗っていた！ かつての宿敵の子が現れたと知った皇帝の反応は？ ジャムカは母の仇を討てるのか？ 「ガオ!」別冊付録に掲載された物語に大幅加筆した『銀河戦国群雄伝ライ 異聞』ここに登場！

真鍋譲治

時代を先取りする正統派コミック誌

月刊 電撃コミック ガオ!

http://www.mediaworks.co.jp/special/gao/

毎月27日発売

銀河戦国群雄伝ライ 異聞

銀河戦国群雄伝 ライ異聞

黑暗

戦國の世を駆け抜け、時代を作った群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

大罪孤独の少年であったが、立身出世を目指し戦国の乱世に一騎当千の兵士として身を投じる。戦場にて見せる、正義を見せ、その度胸と悪運の強さが時の覇王、浪切ノ日にとまり師団長に抜擢。開幕に応えて日線で大暴れし、敵味方問わず勇名を馳せる。その後も数々の戦功をあげ、昇進を重ねて一国の地方都市、都督級の太守の地位を得る。その地で帝代の天才、大覚屋師真を軍師として迎えて彼の助言を聞き入れながら地盤を固め、ついには挙兵し、天下取りへの一歩を記す。日国的に不利な状況の中、九大軍と死闘を展開。金剛海にて急襲、狼男を展をふるって倒し、その勢いで全九大を平らげる。その後、七大王に即位し、善十を竜王と称して国内の安定に力を注ぐ。ずべて体制を整える一大、対し、智の独眼竜正宗と南大王、維候が侵攻を開始。各個撃破の策をとり、まずは開影王で一子を相手に戦い、最後には旗艦同士の一騎打ちにより、ついに征敵王を倒す。返す刀で南大軍に対しても壊滅的な打撃を与え、統一への道を確固たるものにする。また私生活でも第二夫人である麗羅との間に後継ぎも授かり順風満帆の中、病魔を決意し進事を始める。その最中、由下の裏切りにあい、最愛の女、紫紋を失ってしまう。反乱を収めて再び制覇を進め、数々の激戦を経て、ついに南大王、維候を破り、天下統一を実現する。そして、大五王帝国の初代皇帝、即位。

【大覚屋師真】だいかくやしいえ

南大陸の参謀、大覚屋の放蕩息子であったが、紫紋へ横恋慕したことによる縁で山に乱会い、その才を請われて正の軍師となる。史書、経書から兵法、人文、気学に精通しており、政治や軍事の分野を問わずあらゆる局面でその知謀を発揮して敵を打ち破り、正の天下取りの手助けをしてきた。雷が皇帝に即位した後も、宰相として辣腕を振るい、帝国の基礎を築く。雷とは君臣の関係を越えた親友である。

【独眼竜正宗】どくがんりゅうまさむね

父である先代王の死後、弟の虎丸を補佐して摂政政治を行っていた。女ながら、政戦両略の視野の広さやセンスに加え、指導力に類まれなものを持っていた。若かりし頃の雷が教えを請いたいと言ったほどの傑物で、各国の諸侯たちにもその名は恐れられていた。だが、その名声が災いし、次期国王の虎丸を利用した造反が国内で起こり、徐々にその権力を失い失脚する。大将軍として軍の指揮を握ってはいたが、その行動は著しく制限され監視させられてしまう。智の行くえを案じて開始した九段攻で生起した、佛影峠での戦いで雷に見守られながら陣没。事実上の国王である正王を失った皇国は九、俳徊される。

【項武】こうぶ

もともとは海賊であったが、帝京楼に太守として着任した雷に誘われ、その最下にくを連ねる。重さ八十はあろう大斧を自在に振り回す怪力無双を誇る豪の者。雷が大下取りを目指して駆け抜けた幾多い戦いでは、進軍の際に重要な役割である先鋒を常に任され、その力を遺憾なく発揮し、縦横無尽の活躍を見せ馬行に応えていた。今では誰もが認める強者の将軍として、その名は国の内外を問わず轟いている。

【麗羅】れいら

旧友であった紫紋の亡き後、第一夫人の座に就き、雷との間に太子の竜貴（劉夕・林天九）を授かる。我が子の皇位継承の座を盤石なものとしようと、力のおよぶ限りの手を打とうとしている。

【楊尚香】ようしょうか

商家の出ながら雷の寵愛を受け、後宮に入った後に第二夫人となる。麗羅に続いて産んだ第二子を、継承順位を飛び越えて皇帝にしたいと考えている。そのことで麗羅とは争いが絶えない。

正宗ぇっ!!

安康二年
智国の事実上の国主
独眼竜正宗陣没

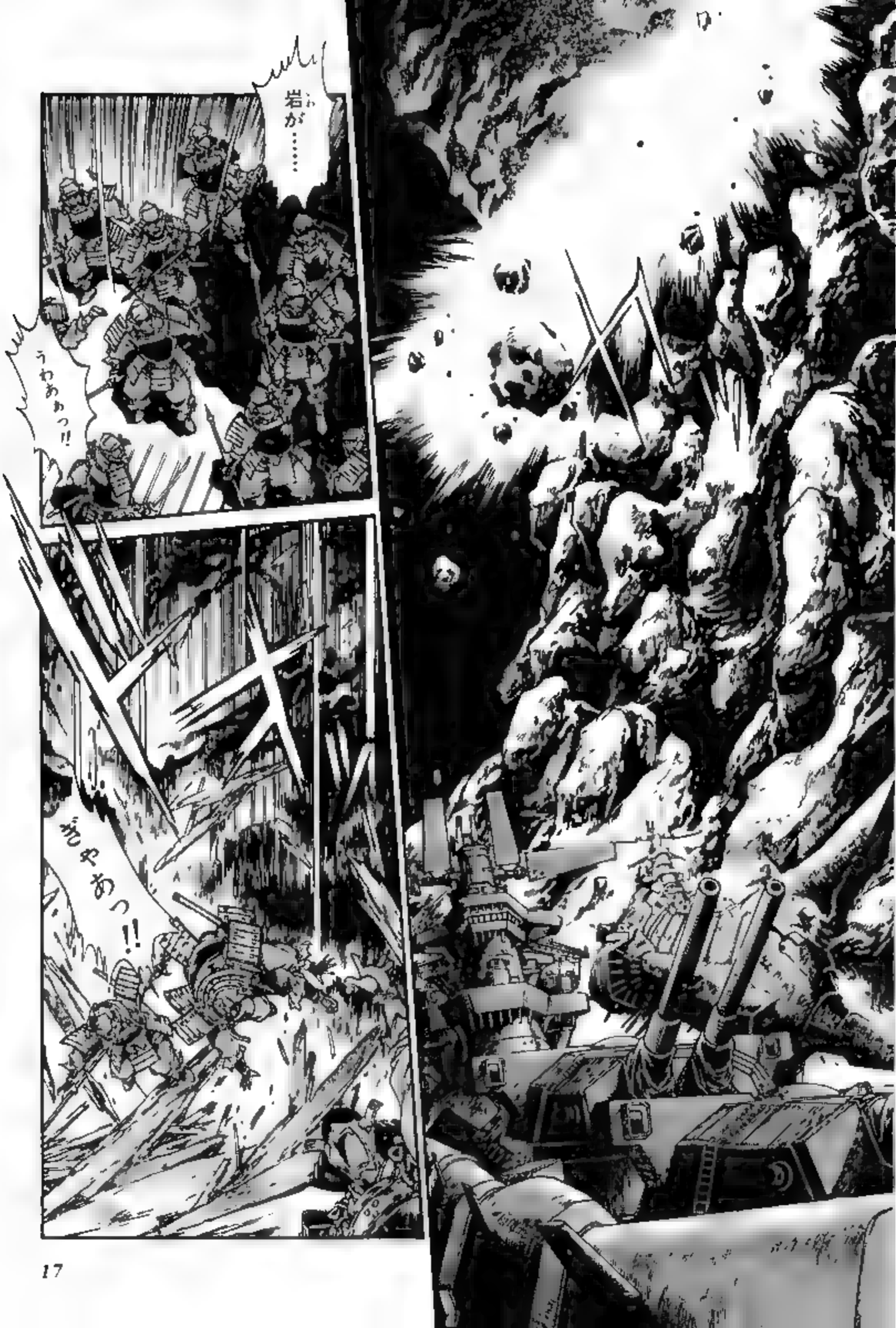
竜我雷
大五丈の皇帝に即位
新しい銀河帝国が
誕生する
砲声は止み
強大な帝国の成立により
銀河に百数十年ぶりの
平穏が戻ってきた
――だが…

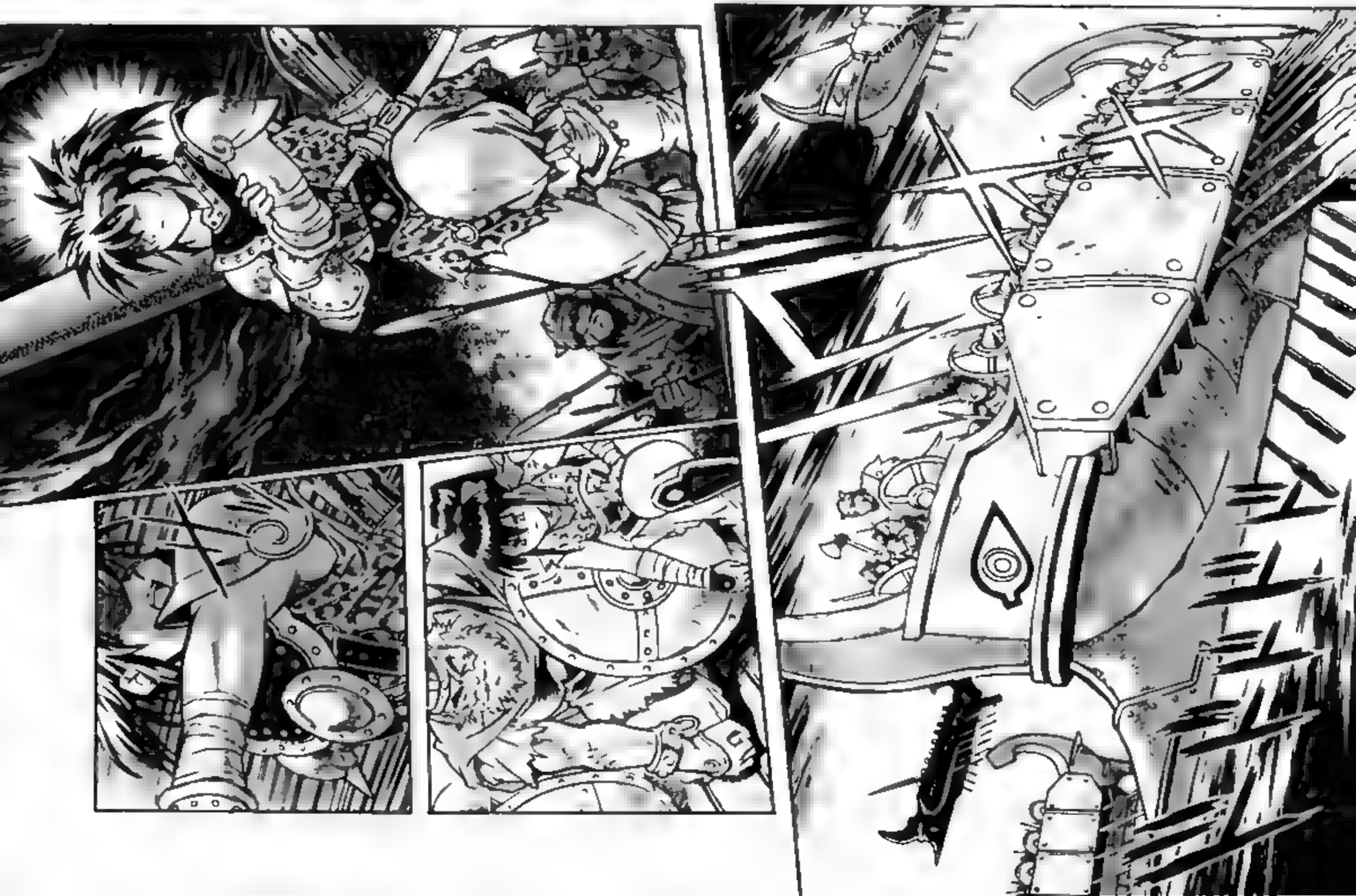
ゴゴゴゴ
智海南道(三分割された旧智領の一つ)

全砲
斉射三連後
突撃する！

カカれ!!

AHH


岩が……
うわあぁっ!!
ぎゃあっ!!



帝都の天地

皇帝　屯我雷

海賊ごときを

名はジャムカ！

ジャムカ？

爽の言葉で雷光を意味します

御無礼を承知で申し上げますとその戦いぶりは名の如く雷光そのものまさしく陛下の若きお姿にうり二つと聞きおよんでおります

元帥 秦公日

海賊相手に精強たる五丈軍もヤキが回ったかのう 姚分！

まったくじゃ今の若い連中は軟弱でいかん！

ふふ

俺とうり二つのう…それでは守備隊では歯が立つまい

だが解せぬ

は？
その海賊共に
次々と智の領民が
参集していると
申したな
戦に強いだけでは
人は集まらぬ
食いつめの
浪人ならともかく
太平の御世を
楽している民を
戦場に駆り立てるは
何か他に理由が
あるはずだ
ん？
いかがした？
何か理由が
あろう
林ノ元帥！
陛下…
これは
不確かな情報で
ございますが…

き…
貴様〜〜っ！
海賊の身で異族の手を借りまでして皇帝陛下の尊い太平の御世を妨げるか!!
今の皇帝は
我が母の仇だ！
な…？
すると貴様は…
本当に!!
その通り…
我が名はジャムカ！

独眼竜正宗の子なり!!

太子 竜貴
皇后 龍羅
田上
また 陛下か？

はい
史書を少し…
弟達と一緒に
狩りに行かん
かったんか？
いや……
狩りは苦手で…
獲物とはいえ
血を見るのは
苦手ですから
まあ
本もええけどな
知勇に秀でてこそ
人の上に立てるんやで
勇を特に…
父上に認めさせな
あかんで
母上
人より秀でることが
それほど大事とは
思えません
なんでや？
人より秀でれば
必ず心に驕りが
生じます
私は
常に人に頭を下げて
教えを請いたい
そうか…
まあええわ
おまえは
おまえの好きなように
すればええ

陛下のお帰り——

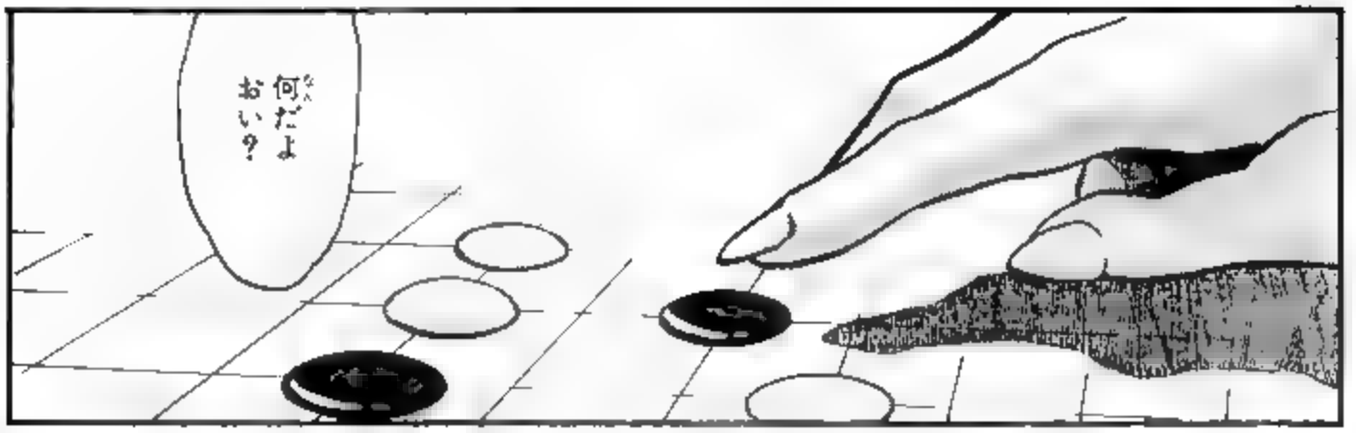
陛下
お誉め下さい！
今日
白牙が初めて
虎を射止めたの
ですよ!!
側室
楊尚香
…と
その子 竜白牙
父はぜひとも
南蛮で象を……
話は後に
してくれ！
あ……
陛下～～!!
師真は
来ておろうな
はい
先程から
奥に……
もう 陛下ったら
師真 師真って～～
いくら元軍師だからって
今は無官の徒じゃない
なのに
何あれ！

ふふん
香め
雷と帥真の
特別な関係か
わかったらん
ようやな
皇位継承を
確実にするには
正に
帝の器量のある男を
押さえること
や
女の愛だけで
成し遂げれるもんと
ちゃうで
あら
太子様
今日もまた
お顔の色が
優れませんわ
！
はは
そうですか
けど 身体の方は
何とも
ありませんよ
いけませんわ
太子様ともあろう
お方がそんな
青白いお顔では
たまには
太子様も
弓馬を稽古
なさると
いいですわ
なんなら
白牙がお相手
しても……
尚香!!

あら 何で ございましょ
皇后様
余計なことは 言わんでええ!
そんな 怖いお顔 なさって…
太子様の 御健康を 気づかっての 話ですわ
それが 余計やと 言うんや!!
引っ込んどれ!!
まあ 人が親切で 申し上げてますのに そのような おっしゃり方を なさるなんて!!
やかましい おまえの親切ほど うさんくさいものは あらへんわ!
なんですって〜〜〜!!
皇后様!
尚香様!! お止めください
行こう 白牙
狩りの話を 聞かせてくれ
はい 兄上

師真!!
師真は来てるか!!
聞いてくれ"大事な話だ!!
何だ何だ皇帝たるお方がそんなに息せき切らして
雷?

綺羅
師真のお相手
ご苦労だった
下がっていいぞ
はい
身体に気をつけてな
無理はするな
ありがとうございます
陛下
やれやれ
一妻九妾
三十七子か…
しょうもないぴに神ここや下る
……
師真!!


何だよ
おい？

早朝から
呼び出しておいて
何事かと思い
取る物を取らず
やってくれば
だんまりか？
……

一体
どうしたって
言うんだ？
ただならぬ
顔だったぞ
この部屋に
入ってきた時は
ﾘﾘﾘ千

……
正宗の子が
いる……

ああ
あの海賊
やってるとかいう
男か？

ふ・
さすがに
耳が早いな
そういう
ゴシップ的な噂話は
市井の方が早く
伝わるってもんだぜ
お役所仕事では
無理だろうがな
しかし
それが
どうした
そんな話
ごまんと
あるだろう
二年前には
偽羅候が
現れたし
その前は
やはりとこぞの
王族を名乗った
輩もいたな
おまえの
御落胤騒動も
一度や二度では
なかったろう
天下太平とはいえ
戦乱の時代の終結から
わずか十数年
そういう灰汁が
まだまだ湧いてくる
御時世と言うことだ
しかし あの
独眼竜の子か…
正宗が知ったら
どういう顔を
するか……
俺の子だ

え？
俺と正宗の子だ！
間違いない…

俺と正宗の間にできた子だ!!

ゆはは
またしても
五支軍のやつら
策にはまりました
のう！
まったく
懲りない連中だ！
さすがは
独眼竜正宗公の
息子
茅君の
戦上手ぶりには
わしらも舌を
巻きますわい
よせよ
そんなに誉めるな
くすぐったいしゃ
ないか
いやいや
まだまだ
誉め足りませんぞ

若君
我ら智の旧臣
名を変え
魂の地まで落ち延び
海賊にまで身を
落としたのも
若と共に再び
智の国に戻るが
ため……！
それを
お忘れなく
……!!
おう！
誰が忘れる
ものか
必ずや盗人五丈を
追い払い
墳墓の地に
智国を再興して
みせる!!
皆も 俺に力を
貸してくれ!!
ががはは
やっておりますな!!
いや
けっこう
けっこう
勝ち戦は
めでたいものじゃ!!

その盃 わしにもいただけますかのう
若君！
金兜魔王殿！
これはこれは若君自らの酌とは痛み入ります
なんの此度の勝利は金兜魔王殿の助けがあってこそ！
今後も何分よろしくお願いいたす
お任せあれ！我ら梟賊とはいえ誉れ高き正宗公に真の君主を見ておった
その正宗公の御遺志を継がれた若君になんで協力を惜しみましょうぞ!!

ふん…！
根っからの海賊がもっともなことを！
正宗公健在の頃はやつは怖れて国外に逃げ出しておったのだぞ
あやつの狙いは分け前だけ…！
時が時ならば けして組まぬ輩よ！

各々方!!

我らは若君様を盛り立てて智国再興を目指さん!!
今日は五丈の賊共を討っためでたい日じゃ!!
酒じゃ 女じゃ もっと持ていっ!!

父上は雲見と
同じ名前
ないか？
空を
見上げると
あの日の事を
思い出す
俺は
少しでも
父親に近づけた
のかな――？
やはりここに
おられましたか
若殿か家来を
捜し出す時は
決まってここに
いらっしゃいますから
きれいな
星空ですね
イノリ

おまえの実家も心配してるだろう
そろそろ実に帰ったらどうだ？
え？
おまえの家には智国が滅んだ後流浪の身だった時にたいそう世話になったそんな恩人の家の娘をこれ以上危険にさらすわけにはいかない
えーえーお世話しましたよ若君のオネショの後始末までね
な…!?
誰がオネショだ!!
そんなわけでまだまだ一人前じゃない若君を放ってはおけませんって
こ…子供扱いしやがって…!!
たかが一つ齢が上なだけじゃないか!!
一つでも年上は年上！
うわっ！
若君のことはこの私が一番わかってます

だから
今しばらく
若君のお世話を
させて下さいな
勝手にしろ!!
若君：
なんだ？
最近少し
お疲れの様子…
何か焦って
いません？
そんなことは
ない！
そりゃ
正宗様は
偉大な御方：
息子として
追いつきたい
その名を汚したく
ないのはわかり
ますけど…
……
その母は
自分ではなく
父に追いつき
追い越せと
よく言っていた
父君に？
そういえば
若君は
父君の話を
なさいませんね
どんな方
でしたの？
名前も
素性も知らない
未だ生きているのか
どうかもわからない
ただ 母が
言うには…

銀河一のうつけ者!!
たったって話た
ぶっ!
何ですの それ?
知らん! 母はそれしか言ってなかった
そんな父を 誇れと言われてもな
うーん
立派な人だったんですよ 父親は
何て おまえに わかるは
そんなの 業績を見てれば どんな人だったか わかります
それに あの正宗様が 愛したお方ですよ
銀河一の 奥様ですよ きっと!

雷丸
母はそのような戦は嫌いだ
だから無くしたい…
皆が悲しむ戦をこの世から無くしたいのだ…!!
母上待って!!
母上――っ!!

皇帝を倒すんだ!!!

いや 美味い
酒じゃったわい！
がはっはっは!!
それにしても 本当に
お頭 あの若造が
正宗のせがれ
なんですかねぇ
そりゃ
うさん臭い話よ！
だが 金づるには
違いねえ！
正宗の名を語りゃ
人も金も集まる
わし達も潤うって
寸法よ！
そうですよねぇ
あの泣く子も黙る
独眼竜に子がねぇ
全くだ
あんな怖い女
相手にしてたら
キンタマ縮み
あがっちまうわ
相当のバカか
怖いもの知らずか・
！
そういう詮索は
なさらぬ方が
よろしいですな
金兜魔王殿
ためには
なりませぬぞ！
は…
ははは
いや何
下衆の勘繰りじゃよ
気を悪くするな

若君は
れっきとした
正宗公の
忘れ形見！
それがしが
正宗公より
確かにお預かりし
奥にお連れ申した!!
ああ
もっともじゃ
もっともじゃ！
そなたは
忠義の臣！
疑うわけでは
ござらん!!
しかし——
ヤハイラ殿は
若君様の父君を
ご存しなのかな
主君の
父君で
ござるぞ～！
お主らが
逆立ちしても
敵わぬ相手だと
申しておこう！
ちいっ！
あれは
いつだったか…
俺は
夢を見た

…で
やっちまったてか?
いつもながら
後先のことを
考えない
おまえらしいな!
命懸けだったぜ
相手は
あの独眼竜だ
恐怖で
あっちの方が
役に立たなく
なるかと思った
だが
ここまで来て
逃げるのは
男じゃないと
奮い立たせてな
まあ
殺されなくて
よかったな
…で
銀河一の女傑を
モノにした
ご感想は?
まあ
夢の中での
話だが…
あれは
夢ではない!
女と契る夢を
見ないわけでも
ないが…
あそこまで
生々しいのは
正宗の肌の温もりから
息づかいまで……
克明に
覚えている

……で
また
夜遅いを？
若いとはいえ
懲りないねぇ…
何おまえ
紫紋ちゃんじゃ
満足できなかった
ってわけ～～～？
新婚早々に
他の女のとこに
夜遅いたぁ
首締めたく
なるねぇ～～～
悪かったな！
まだ続きが
あるんだ
聞けよ！
何度目の
夜だったか
正宗が…
"子"ができた
え？
驚くことも
なかろう
こうして
毎夜会っていれば
いずれな……

とうしたな？
祝ってくれぬのか？
おまえと私の子だぞ
う
産しいか？
もちろんだ
安心しろ
産んだ子は
私が立派に
育ててやるさ
そして
時が来れば
おまえのことを
父親いことを
教えてやろう
ふふ
それにしても
大した子
だろうな

何とも
はや……
よっこらしょ
それで…
その時できた子と
海賊の親玉が
同一人物かも
しれないと…
罪深い
話だな……
俺の話を
信じるか？
笑うんなら
笑っても
いいんだぞ
我ながら
口に出すのも
バカらしいと
思っているんだ
いや
おまえの
人間離れした
ところは
嫌というほど
拝見した
龍になって
子を作ろうとも
有り得ないこと
ではないな

それて
この俺に
とうしろと？
会って
見極めたい
正宗の子を
名乗る男が
いるのなら
本当に
俺との子なのか！
師匠！
今一度
軍師となり
一緒に来てくれ
おまえの助言が
必要になる

いたただだ！
大将軍
それかしは
ケガ人でござい
ますぞ！
もそっと
お静かにねがい
うわあっ!!
あなた
何て
それかしか
こんな日に
しゃんとせい！
陛下の御前ぞ!!
車騎大将軍 項武
はは？
陛下ぁ？

あわわ！
これは
とんだ
御無礼を・！
平に・平に
御容赦のほどを…!!
陛下!?
それに
丞相まで…
元丞相だ
軍師てよい
都尉 張鷺
ひとい態だな
面目ございません
海賊共に
食糧備蓄庫を
襲われ
押っ取り刀で
駆けつけた
ところ……
逆に返り討ちに遭い
このような態に……
かくなる上は
腹かっさばいて
陛下に
お詫びいたす
所存!!
あ——
もういい
おぬしの
腹切りなど
見たくもない

それは
いつのことだ
は…
七日前で
ございます
く…軍師様
弁解するわけでは
ございませぬが
やつらは
兵百万を号し
もはや
海賊の域は
とうに超えて
おります
百万か…
だが
百万の口を
満たす術は
持たぬようだな

奏からの
支援を受けて
いようとも
なんといっても
百万の口だ
補給は
容易ではない
やつらの略奪行か
兵の増加に比例して
その間隔が
短くなっている
おまけに
夜はこの夏から
天候不順で
作物の育ちが
良くない
ここら辺から
締め上げて
行きますか
陛下

項武将軍！
はっ
配下の一将に
率いさせた
三個大隊を越境させ
奥の地へ送り込め
奥の軍勢とは
戦うな！
村・街・畑
何でも
焼き払え！
軍師様
それでは奥の民が飢え
流民となりますぞ！
国境を
管理している
それがしと
しては……!!
後で
充分な食糧を
送ってやれ
援助の米を見れば
奥も帝国に
従順になろう
後方を焼き払えば
国境沿いに
展開している
奥の軍勢も局地の
援助ところではない
補給線は
完全に
絶たれる
次は
神出鬼没の
やつらの行動力を
どう押さえるかだ！

張鷺
神出鬼没とはいえ
やつらも根拠地が
あるはずだ
わかるか？
は…はあ
確認できる所で
およそ八か所
いずれも
大軍を
動かせない
要害の地で
ございます
特に
この定軍山は
難攻不落の
天険で……
ふむ…
張鷺
名誉挽回の
チャンスを
欲しくないか？
はあ…
欲しいな？
そうだな？
ま…まさか
軍師様…！
私めにここを
攻めよと…!!
そんなことは
期待しとらん
噂を流せ！
う…噂で
ございますかあ？
五丈帝国
随一の勇将
項武大将軍が
直々に定軍山を
攻めるとな！
あっ
そのくらい
なら…
ポン
おいっ
軽く考えるなよ
この任務を！
心得て
おりまするーっ！

途中ですっぽか
えらい違いだ

おまえは
自分が人間だと
名乗るつもりか？

もし
俺の腕の中で
産まれていたら
俺はたとえ
わが血 わが肉を
与えてでも
育てただろう……！
それが
俺の答えだ！
……
今更
遅けて遅れぬ
道か……
半年前——
郊外にある師真邸
そのような
それがしのところに
もってこられては
迷惑でございます
皇后様

それはようわか　とる
あんたか
何てそう調で
引退して
こんな片田舎ー
引っ込んどるのかもや
ちゃうか！
許されへん！
帝国の将軍職を
嘗めんなあんたやて
それを投げるいは
やけと
皇太子様
何ー誰しては
御事前の問題です
匡下が
立ち入るわけには
まいりますまい
カー——
そんなお役所仕事を
聞きとうて
こんなとこまで
来んわ！
わかりませぬな
何をそう
調べ上げられる
竜首相は
一昨年御事に
立太子の儀を
済まされ
お世継ぎが
なられた
嗣子が帝位を
継ぐのは
陛下がお決めになった
国法でございますぞ

雷がそんな
法に縛られる
男やないのは
あんたが一番よう
知っとるやないか

万が一
雷がそんなこと
知らん言うたら
誰が止めれんねん！

……

雷……
いや陛下が
最近何か
おっしゃられたの
ですか？

いや…

せやけど
立太子の儀以来
尚香の巻き返しが
顕著になっとる

雷の寵愛を
ええことに
夜な夜な寝物語で
竜貴の悪口
言うとるのに
違いあらへん！

あれは
相当に
腹黒いで！

左様で…

他にも
重臣を
たらし込んどる
っちゅう話や！

何が何でも
後継指名を
白紙に戻す
つもりやで

陛下が
女の言葉に
左右されるとも
思えませんがね

せやけど
太子の廃嫡など
眉一つ動かさず
できるのも
また事実や！

御安心なされよ
太子様には
宰相の林も
侍元帥も
ついています
もし陛下が
暴論を唱えても
この二人が
うんと言うわけが
ありますまい
林と元帥か…
あの二人の
誠実さを疑う
わけではない
せやけどな…
今のうちに
必要なのは
もっと狡猾に
事を運べる男や
儒者ごときの
誠実さや正論やなく
目的のためには
手段を選ばぬな
それが
私だと？
いや
過分なお褒め
恐縮です
なにせ あんたは
天下取りのために
実の弟を
切り捨てた男や
うちには
そういう意味の
忠義者が
必要なんや

うちも
目的のためには
手段を選ばぬ女や
あんたも
子々孫々の繁栄を
図るんなら
うちと手を組むことや
うちは
怒らせたら
怖い女やで…!!
それを
よう覚えとき…!!
……
絶対権力者に
とって
太子の倅など
指一つ動かさず
やれる…か——
ふむう…

項武将軍をお連れしました
ん
ぬっ
お呼びで？
おお
だが おまえも俺に聞きたいことがあるんじゃないか？
そりゃもう！
国事多難な折りにたかが海賊相手に陛下自らの御親征
しかも引退していた軍師様まで引き連れてだ物見遊山でもありますまい
項武！
陛下に仕えて何年だ？
え？
ええと…
一・二年の誤差は勘弁ですぜ
おおよそ二十五年ってとこですかねぇ

陛下の御子？
……
そうだ…
陛下と
独眼竜正宗との間に
生まれた子だ
んなバカな！
だいいち…
事の真偽は
この際どうでも
よい!!
ただ
陛下さえ認めれば
それが事実となる
と言うことだ……
では
此度の御親征は
我が子を
確かめに…！
海賊ジャムカは
その両親の名に
恥じぬ勇敢な
男と聞く

人の親となったおまえもわかるだろうが
どこの親でも自分に似た息子は可愛いものだ
しかもその母親が教えを請いたいとまで陛下に言わせた女性なら――
そしてその母親を自らの手で打ち倒してしまっていたら――
今の太子様はお優しいお方万事控え目で高い見識を持っておられる
だが馬上にて天下を取った陛下にはその優しさがどう映っていらっしゃるか…
太子様を差し置き正宗との子をと…
陛下のご気性ならそんな風に考えても何ら不思議ではない

戦場で斬り殺せと…
言うわけですな…!!
そうだ 正宗の子を陛下に引き合わせてはならぬ!
戦場という混乱の中闇から闇へ葬るのだ!
もちろん全責任は俺が取る!!
お引き受けしましょう
それが本当に陛下の恩義に報いることならば…!
それは?
賄賂
すまんな…
ここ数年世話にはならんかったんだが……

南帝闕(旧智国首都・現智領総督府)を奇襲する!!
な・南帝闕をでございますか!?
そうだ!!
快速部隊を編成して五丈の警戒網の隙を突く!!
そして敵の混乱に乗じて主力を投入し一気に南帝闕を制圧するんだ!

だ…大胆な
攻撃ですが……
当然ながら
危険も大きい
ですぞ！
左様
奴らもバカでは
ありますまい
防備は固うございます
この定軍山
一帯では
百万を超える
軍勢を養っては
いけぬ
とはいえ
五丈を打ち破り
智囲を再建するには
もっともっと
兵も船も欲しい！
確かに
南帝闇は
元智の都！
人口も多いし
造船所もある
ここを手に入れれば
たとえ五丈の大軍が
攻めてこようとも
充分に戦えるだろう！
最近
やたらと五丈が
大規模な討伐軍を
送り込んでくるという
噂を耳にする
なら逆に
こっちから
討って出て
敵の出鼻を挫いて
やるのだ
わかりました…！
若の決意が
そこまで固いのなら
何も申しません
うむ！
早速準備に
かかってくれ！

申し上げます――っ!!

物見の知らせによると五丈軍大部隊がこの定軍山に接近しています!!

何いっ!?

五丈軍が!?

大将旗には車騎大将軍 項武と…!

項武!?

あの五丈一の豪の者と言われる項武が!!

若君! これは容易ならざる事態てすぞ!

左様! 項武が率いるとなると五丈軍の中でも精鋭中の精鋭!

兵力の質も量も警備隊とは桁違いです!

項武とは
それほどの男か？
はっ
それはもう…
海賊あがりの
父親と共に
時の竜王に
従事し…
その怪力無双ぶりは
竜王の行くところ
必ず先鋒としての
姿があると
言われたものです
若君様
ダカン宰相
ひとまず
我が兵の地に
参られなさい
敵の矛先を
かわすことが
大事です
正宗様の代より
我が兵と智国は
親交を深めて
参りました
その御子なら
官民あげて
こそって若君様を
歓迎いたしましょう
いや…
それは
お受けできません

なぜで
ございますか？
退く勇気も
必要で
ございますぞ

そのお言葉
だけでも
充分だ

項武という
大物を送り込んで
来たからには
五丈は我々を追って
夷への越境攻撃も
辞さないだろう

それでは
夷の民が
迷惑する

しかし！

今まで この流浪の
身であった自分に
夷の国挙げての援助には
感謝の言葉も
見当たらないが……

だからと言って
夷の地の民を
防壁には
使えませぬ！

若君様…!!

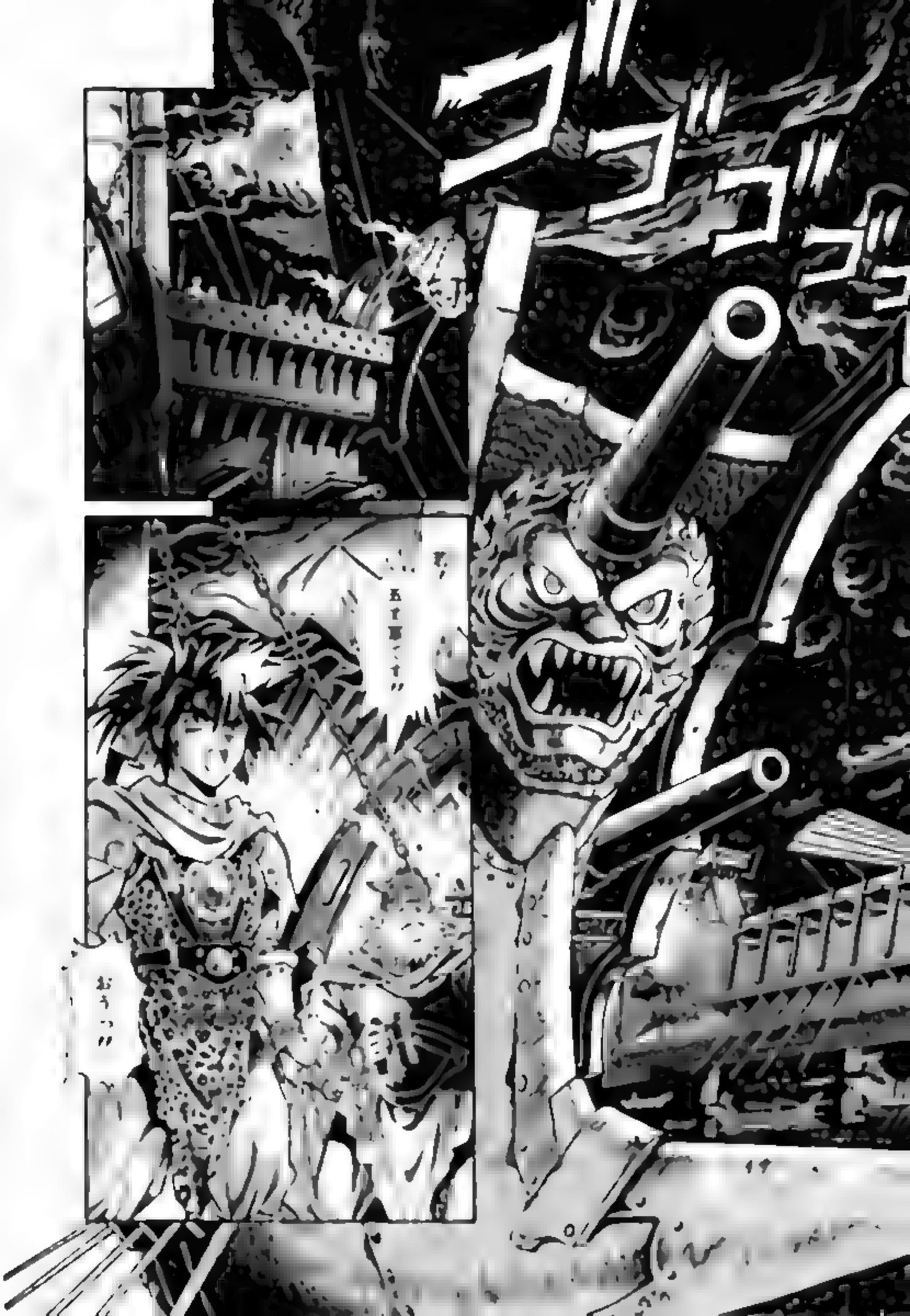
安心なされ！
我には独眼竜の
御加護がある!!

項武ごときに
負けはせぬ!!

何？
わしに兵を出せだと？
はい
金兜魔王様とは昔から同盟者
今こそ力を合わせて五丈軍に当たりたいとの若君のお言葉です
ふん！
そうは言うがな相手はあの項武率いる五丈正規軍だぞ
このわしにこんな一書面にて弾よけにでもなれと言うのか？
ふざけた話だそうは思わぬか？
見返りがそう来ると思ったわ
項武が怖いので？
バカな!!
そんなことは…言っておらん!!

まあよかろう
兵は出してやる
我々が定軍山に
たどり着くまで
せいぜい頑張れと
伝えい
ははっ
ありがたき
お言葉！
では 早速
若君に……
待てよ！
ガシッ
あんな
乳くせえ
ガキなんか
忘れちまえよ
海賊同士の
競争ってやつを
はかろうしや
ねえい
パシッ
て……っ!!
お戯れを！
お楽しみは
勝利の祝宴にて……
それでは！
ふ……

ギーッ
ちゃ
お頭！
慌てるこたぁねえ！
そのうち何もかも手に入る！
野郎の女も金も兵もな！
ついでに大掃除をしておくか
正宗の子を匿っていたことはもっての他だが
毎賊を隠れ蓑にした反帝政組織が夷と結び付き百万もの兵を持つなど断じて許してはならん
ここいらで共食いを覚えさせねばな！



毒岡共は
鼠から
出て来たか

どうした!?
その髭…!!
ああ
いよいよ…
剃った!?
何てまた今頃!
似合ってるとは思ってなかったが…
ああ
これか
いやなに
髭面じゃ
せがれも父親を
見分けられぬと
思ってな
おまえなあ
心配するな!
この目でやつを
確認せぬうちは
こちらから
名乗る気はない

金柑頭の戦いを
思い出すな
あの時の我々も
危機的な状況で
それこそ背水の陣
叶き飛ばされる
立場だった
計画した
領刃テロは
十倍以上の兵力と
数多くの協力を
得しみなく我々に
つぎこんできた
まるで
自らが壁となり
崩せぬのなら
天下覇業の道はないと
言わんがばかりにな

なるほど
それでこの俺を
御指名か……
…ったく
光栄の至り
ですな
そうくさるな
あの狼刃元帥と
同格なんだからな
陛下は
この一戦で
見極めようと
なさっておられる
自分と正宗の
血の確かさをな
ま…
いささか
乱暴な
やり方では
あるが……
ふふん
俺を破れない
ようなら
せがれじゃねえと
言うわけですな！
そいつは
こっちに
とっても
好都合！
言っとくが
この車騎大将軍
項武の盤 …
そう容易くは
越えられねぇぞ ！

ゴオオオ

さすがは
五丈の正規軍
堂々たる
陣構えてすな

これが
五丈軍…

いつかは
打ち破ってやると
夢見てた！

今ここて
対戦するのも
田のお導きだろう

若者！
この戦は
五丈が仕掛けて
きたもの
主導権はやつらが
握っています
お忘れなく！

ああ

だが
我々とて
押っ取り刀て
駆けつけたわけ
てはないぞ！

左翼は
敵右側面より
斜めに
突っ切れ!!

はっ!!

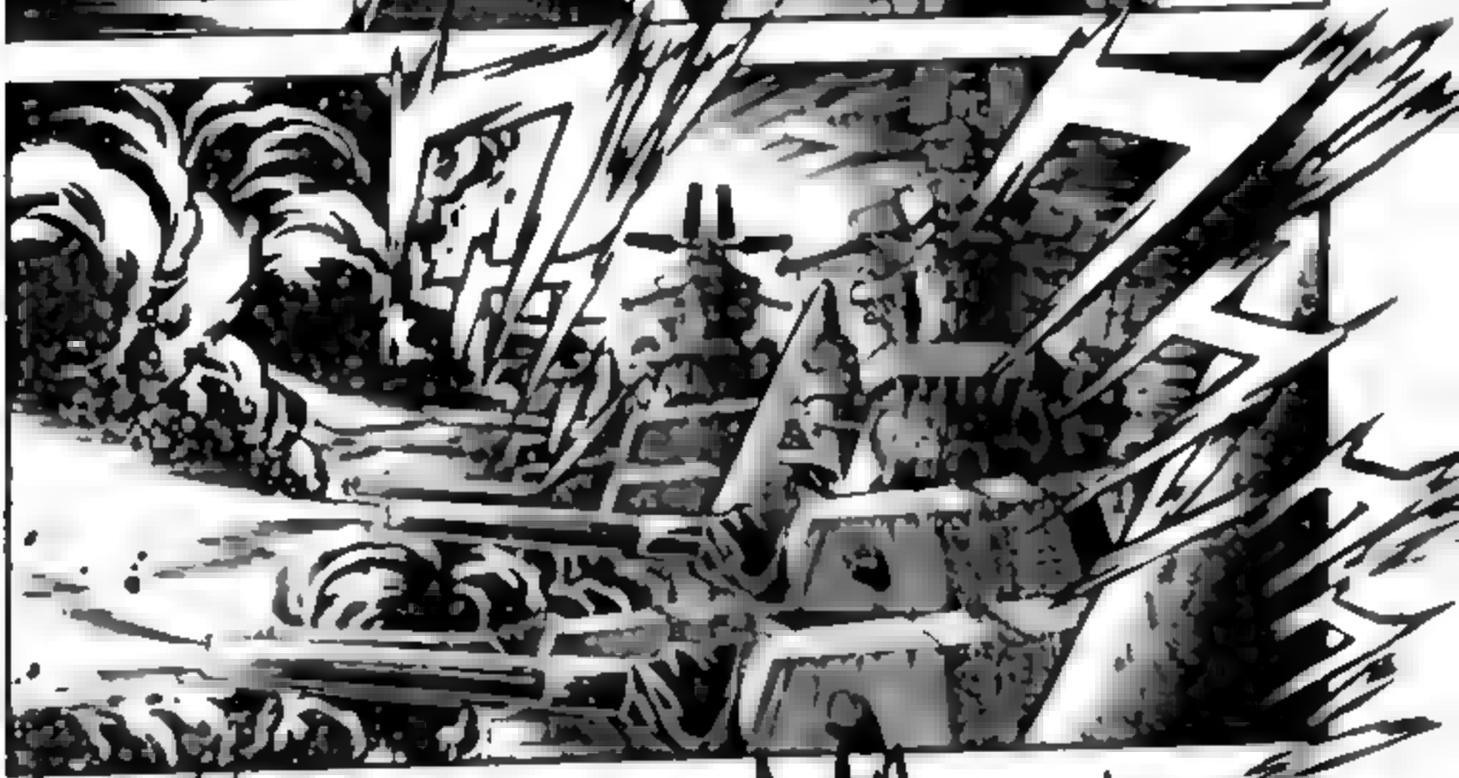
右翼は
それに呼応して
同しく右側面より
突っ込み
突き抜けたら
後方に展開せよ！

はは一っ!!

我々本隊は
敵鶴翼の陣形
翼の根元を
寸断する!!
敵の砲火を
避けるためにも
一刻も早く
敵の懐に飛び込め!!

将軍！
義経共は
三方より
攻め寄せて
きます!!
ふん！
百万の兵力に
自信があるか？

これで
手から見ろいっ!!



ニッサカ
怯むな！
食らいつけ!!

ドドド

久しぶりに暴れさせてもらうぜ!!
おらあっ!!

ドオリ
ドオリ
実の息子の成長を影で見守る父親って柄じゃないな
ほれ
とは言ったものの必要ないかおまえの鼻はよく効くからな
ふん
ではごく一般人の俺は文明の利器のお世話になろう
どこだ?
ワアアア
あそこだ一際大きい船があるだろ
ほう…

続けっ!!
うぬ! ちょこざいな!!
五丈
第三軍団の将
王威参る!!

おいおい
何するつもりだ!?

若君！
若をお守りしろーっ!!
ふ…
……
どういうつもりだおまえ！
殺す気か!?
なーに息子とじゃれあっただけよ
お遊びはこれまでだ!!
押せぇーっ!!

五十相手に
首を見せれるかぁっ!!
我が名は
ジャムカ!!
独眼竜正宗の
子なり!!

後方から!?
若!
金兜魔王が
寝返り
ましたぞ!!
ふはは
死んで行く者は
金にはならん!
海賊たる者
強い方につくのが
常識だ!!
撃てぇ——っ!!
もっと
撃てぇ——っ!!

包囲されたようだな……
大勢は決した
俺は おまえの決断を買った
一騎入れれば 軍旗も誉の死者も一兵残らず 帰還できる
ただし 俺の助言をあてにするなよ
軍員の時は おまえは俺に決めさせたんだからな

ならぬようだな
致し方あるまいんな

敵に地の利を
使わせてはならぬ!!
項武将軍の名を
使った偽しで
賊共は
戦力を定軍山に
集中している
だが一方
金や略奪目当てで
連中は雲霧四散だ
兵力は四割方
減少している
将軍!
部隊を多く分け
順次送り出せ
到着時は
旗差し物や
銅鑼 松明で
派手目にせよ
なるほど
実際より数を多く
見せるわけですな
連中は徹底抗戦の
ハラだろうが
戦力差を痛感すれば
脱出を図るはずだ
全滅しては
元も子も
ないからな!
五丈の
やつらめ…!

もう一月になろうというのに動きなしだ
兵糧攻めのつもりか？
若！御覧なされ！
また増援です！
周りは大軍の五丈の精兵
輿との連絡も途絶えて
全くの孤立状態
打って出ても籠城しても
全滅は必至か…

包囲して一月
攻めるも逃げるも
動くとしたら
この辺たろ
もっとも
ノャムカとやらが
獅子の心以外に
狐の領土を
受け継いでいれば
別だがな
師匠！
おまけに
今夜は新月た
闇夜に
なる
すでに
手配はしている
今晩あたりが
危ないな
俺と正反対の
男だか……

わかっている
できるだけ
生かしたまま
捕える
それが
かなわぬ時は
逃げるにまかす——
だったな
頼むぞ
だが 戦場は
生き物だからな
……！
キリキリ
う…
どうした？
いや……
何でもない
艦橋に
戻って
指揮を執る
おいおい
何だ
腹下しか？
酔か？

やれやれ
…ったく
誰のせいだと
思ってやがんだ
だが
やらねば
ならぬ…！
雷の懇願に
負けて
捨てた軍扇を
再び手にした俺だ
軍師としての
思考を優先させる!!
だが
雷は…
皇帝と
父親……
どちらで
振る舞うつもり
なんだろうか…

おっ！
見ろ！
海賊共が
出て来たぞ!!
始まったか…
手はず
通りに！
若君！
お逃者で
智国復興を
お願いします!!

援護隊が
突入しました!
御覧なされ
戦火にひかれるように
五丈軍が移動を
始めましたぞ

すまん…
みんな…!!
イノ!
ハイ!
我々が血路を開いて
脱出できたなら…
おまえの実家で
若君を匿ってくれ
わかりました
ようし
今だ!
行くぞ!!

こっちは
〝空っぽ〟だ
いいぞ……!!
うっ!!

しまった…!!
罠だ!!
かかれ――っ!!
怯むな!
血路を
開けーっ!!

むっ
あれだな!!
くそうっ!!

五丈大将軍
項武見参!!
!!
海賊ジャムカ
勝負だ!!
おうっ!!

はあっ!!
ふん!!
ドカ!!

そうれ!!

ふっ！
海賊にしちゃ
上出来だが…！
親父さんには
まだまだ遠く
……
及ばねぇな!!
な…!?

陛下(へいか)!!
船(ふね)を出(だ)せっ!!
早(はや)くっ!!

うっ!!
悪く思うなよ!!
若君!!
若君ーっ!!

項武!!
いかに
戦いを任した
とはいえ
ここでは
皇帝たる
俺の命令に
従え!!

ふう
あれが…
五丈皇帝
竜我雷!?

あっ!!
しまった…!!

母の仇だ!!

うおおっ!!

感動の出会いねぇ
悲声あげて
おくしょう
こやかる!!

ぬ…
抜けない…!!
鍛え上げた筋肉が
刃を噛んだのだ
全く陛下も
無茶なさる…
どうした
ここまでか?
そんな力では
俺の腕一本も
落とせんぞ

う！
うむむっ!!

あああ
う……
くそ……っ!!
ガキン

無茶をするな
もう若くはないんだぞ
これか？
この傷の痛みはおまえへの詫びだ
俺は英真を殺せと命じ実の息子は助けた
我ながら身勝手なもんだ

……
そんな時代はもう終わった…
おまえが終わらせたんじゃないか…
それで充分だ…

海賊よ

正宗の子と
名乗っている
そうだな

それは
まことか？

正宗は
敵ながら
敬愛すべき
英雄であった

貴様のような
片田舎の
海賊とは格が
違うわ！

その英雄の名を軽々しく騙り
兵集めの方便に使ったとあらば……
許さんぞ!!
ふ……
はあはっは!!
何がおかしい?
これが笑わずにいられるか!
全銀河を支配するという皇帝が母の名に怯えておいでだ!
死してもなお五丈の親玉を怯えさせるとあらば
母も貴衆の国で満足されておられよう!

どうあっても
正宗の名を
騙るか!!
ならば
たずねる!
おまえの
父親は
誰だ!?
……
どうした?
答えられぬのか?
恐れながら
申しあげます!!

何者だ貴様！
はっ それがし正宗公より幼き若君を預かり奥の地にお連れした者！
それかしは御嫡父をよく存しあげております！
ほう…
ヤハイラ!?
正宗公の申すところ…
その方は龍であり人であり
その実は
その実は？

銀河一の大うつけ者…!!
にてございます
ズルッ…
くっくっく
師真！
いや…
失礼…
大うつけだそうでございますよ陛下
それがしもその通りだと思います
ふ……

ポカ
あっはっはっ!!
そうかそうか
銀河一の大うつけか
はは
さもありなん
ごほん!!
さすれば万事に精通なさっておられるあなた様なら
事の真偽はおわかりでありましょう!!
このジャムカ様…幼名 雷丸様こそ
正真正銘独眼竜正宗公の忘れ形見にてございます!!

ヤハイラ！
余計なことを申すな!!
父上が大うつけとは母の教れ言だ!!

もうよい
父親の素性はよくわかった

母は常に父を越えるようにと申された!!
父上はうつけ者ではないわ!!

鳥賊のこせがれよ
他の者の名ならいざ知らず
今後は正宗の名を騙るのはやめろ！
おまえには大きすぎる名だ

何いっ!!

似てるな…
やはり
あの日の
輝きなど
うりつた
何度でも
名乗ってやる!!
貴様が
その名に怯えて
狂い死に
するまでな!!
我が名は
ジャムカ!!
独眼竜正宗の
子なり!!
この性格もな
ええい
貴様!
陛下の御前だぞ
無礼者!!
ええいっ
殺せ――っ!!
さっさと
殺せ――っ!!

どうした！

俺を殺せば
もう正宗の名に
怯えなくて
済むだろ！

殺せ——!!

ふん

正宗の名を
傷つけ
親の仇にことよせ
卑の手まで借り

とんだ
食わせ者だな

世の安寧を
乱す
憎き賊め！

殺せだと?
追いつめられたから
辛いから
死んで逃げようなんそ
そんな甘い考えを
あの独眼竜が
持ったと思うか!!
本当に
命を懸けて
戦った者は
そんな台詞
口が裂けても
言わぬわ!!

陛下！

後は任せる
師匠

法に従い
処理しろ

ははっ

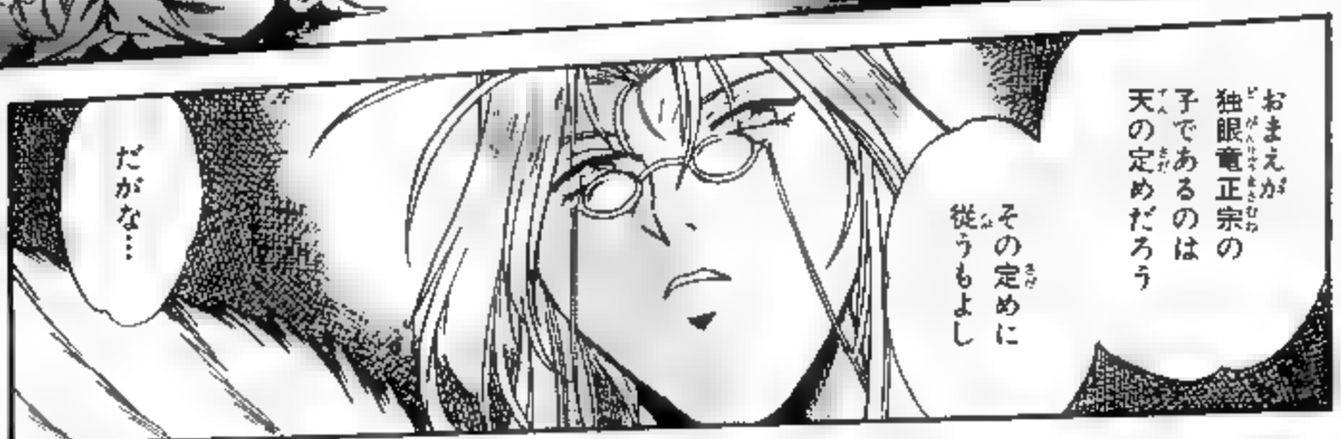
……

ちくしょう……!!
親の仇を
目の前にして

ちくしょう：

ジャムカよ

親の仇討ち…
母国の復興
それはそれで
けっこうだが
そのために
生き方を
狭めては
ならん
なぜなら
おまえは
誰かの子ではなく
ジャムカという名の
男なのだ！


おまえが
独眼竜正宗の
子であるのは
天の定めだろう
その定めに
従うもよし
だがな…

人は その定めを
乗り越えた時に
初めて
大きくなれる
ものなのだぞ！

俺は
あの戦乱の時代…

そういう男達を
多く見てきた

……

いや……
腐れ儒者の
たわ言だったな

ま…
次この世に
生まれてくる
ことがあったら
心してくれ

海賊ジャムカと
その一味！

処刑は明朝
執り行う

ひったてえい!!

おいっ！
奥の手だよ
ちょ…ちょっと
処刑は明朝でしょ！
お願い
私も一緒に
連れて行って!!
心配するな
予定に変更はない
陛下が
お呼びなのだ
え？

俺に・・
何か用か？
何て
顔をしている
そんな
ふくれっ面では
母のいる極楽浄土
どころか
親父の待つ
地獄にも行けぬぞ
なぜ俺の父親が
地獄に行ったと
わかる!!
極楽というところは
退屈極まりないと
聞くからな
ふん！
なるほど・・
おまえが地獄に落ち
親父と共に
暴れ回れるように
この俺が
兵法を授けて
やろう
誰が
おまえに・・!!
う・・・!
男には
耐えて学ぶ
時がある！
俺も若き頃は
あちらの軍師に
頭低うして教えを
請うたものだ
うそつけ！

これが俺の無敵の軍団だ
星の海を埋め尽くすごときの大軍勢であろう

十…
十こい…

だが
独眼竜正宗か
率いた軍団は
これの十倍以上の
大軍団だったんだぞ！

母か…

正宗とは互いに
死力を尽くして
戦った…

俺も何度も
逆襲を食らわされ
心底恐ろしい目に
遭わされた

勝敗の分かれ目なと
紙一重にすぎん

正宗から
眼に受けた
弾の内一発は
まだ中に残っている

時々痛むが
取り出す気はない

これも
正宗からの
教えだと思って
いるからな

先頭を見よ！

軍団い要は指揮官！その指揮官の位置か重要だ

……

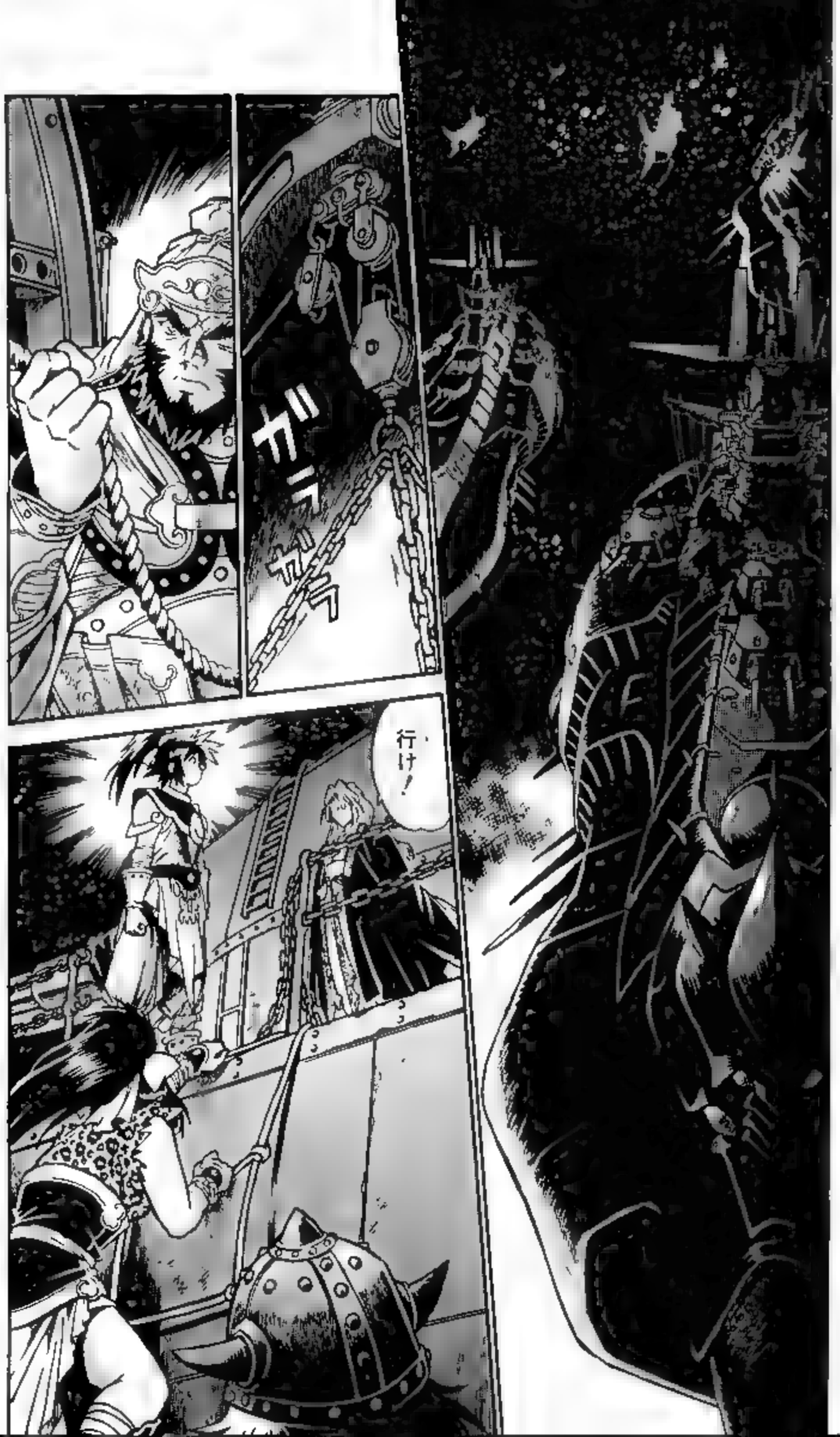
……

我々は天下のためとはいえ策を弄し過ぎたようだ

さあ

陛下は父親だと名乗られるんでしょうかね

あっ!!
軍師
羽扇が!!
もう
用はない
俺はまた
竜我留の
茶飲み友達に
戻るよ
天下取りのため・
帝国の安定のために
あの二人の絆を
裂こうとした
そんな時代を
陛下は終わらせ
ようとしたのにな


ガラガラ
行け！

とうして
とうして
俺を助ける？
さあな…
俺も
人の親になって
甘くなったと
いうことかな
正宗の子
ジャムカよ
銀河は広い
もっと
色々なことを学べ
そして大きくなれ
生き残る術を
心得たら
また挑むがいい
あの男に…！

軍師さんよ！
ん？
あんたは、俺の父親を知ってるのか？
ああ…知ってるよ
どんな…どんな男だった!?
よくな！
おまえさんは父親そっくりだ！
血の気が多くて無鉄砲でな…！

そして
何よりも
おまえの母親を
愛してた……
いつか
孫の顔でも
見せてやれ
な
そっちの娘さん
ば…
バカ言うなーっ!!
ははは
よいか
海賊シャムカは
明朝処刑
されるのだ
だから
その名の海賊が
また再び現れる
ことはない

行っちまいましたな

ああ…

これで…良かったんですかねぇ…

俺も胃が痛くなりそうだ

そうか？

俺は全快したよ

確かに
帝国にとっては
一つの災いを
残したかもしれん
だが
一人の心は
救ったと思う
ま
将軍らには
迷惑以外
何物でも
ないがな
皇位継承者の
海賊なんて…
そん時や
また知恵を
貸して下さいよ

さっ
若
船室の方へ

ヤハイラ！

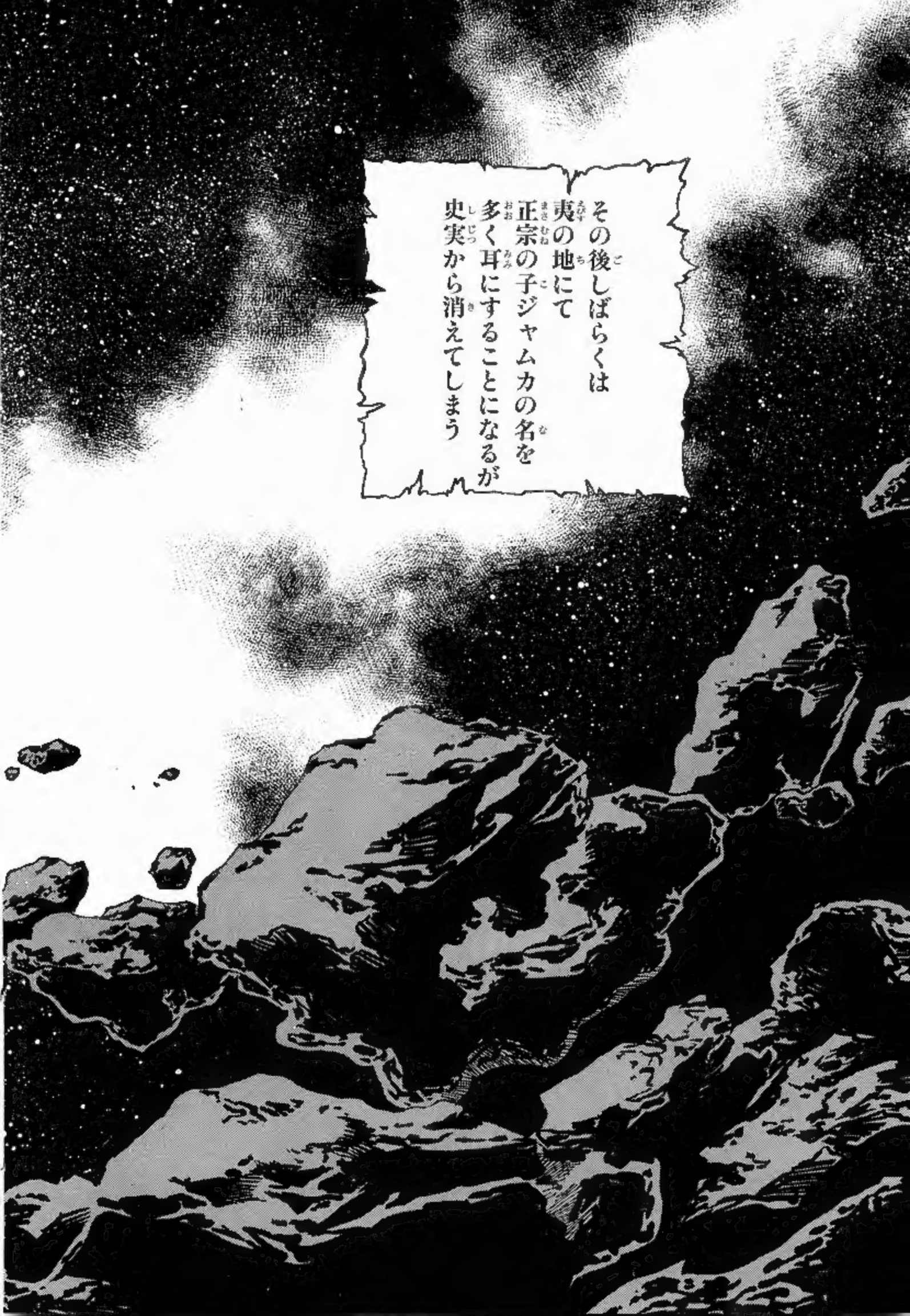
よく
わかったよ

確かに
でかいよ
天下人って
やつは…!!

だが俺は必ず
あの男を越えて
みせる！

父を越えるように
皇帝を越える男に
なってやる!!

俺は強くなるぞ!!
誰にも負けない男になる!
そのためにならどんな試練も耐えてやる!!
ヤハイラ!
俺を鍛えてくれるな!!
よくぞ申されました若君!
今の志お忘れなきよう!
イノ!
おまえもな!
はい?
女の私に鍛えて欲しいと?
あちらの方?
ば…
バカを言うな!
そういう意味で言ったんじゃない!!
ハイハイ月


その後しばらくは
夷の地にて
正宗の子ジャムカの名を
多く耳にすることになるが
史実から消えてしまう

次に歴史に
現れるのは
十五年後の
夷に強力な王朝が
誕生した時であった

その初代王に
独眼竜の血が
流れていると
人々は噂したのだった

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ 異聞

2004年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5214(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社　カバー印刷　第一美術印刷株式会社

©JOJI MANABE 2004

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！ 2003年2月号別冊付録(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-2562-1 C0979